

## 前回の RoW

Hut を起動し、扉を開けるとそこは Earth の雪国だった。  
.....Earth? 聞き馴染みのない世界ですね。

## 対ツァーリ・タンク戦

扉の外は雪国であったが、情緒あふれる光景とはいえなかった。  
あちこちに焼け落ちた建物の跡、嫌な雰囲気醸し出す巨大な焚き火の煙、妙な装いの兵士の群れ、そしてバカでかいバリスタめいた車輛。

兵士たちは、Hut から我々が姿を現すなり、こちらを指差して何やかやとガナリたてる。  
聞いたことない言葉だが、お師匠様と Kirsikka はわかる。「敵だ！」  
出会うなりいきなり敵呼ばわりとは剣呑である。ともあれ戦闘開始。

鳥小屋さんチームと敵兵の間には 200ft. ほどの距離があり、敵は火縄銃めいた(しかし見たことないフォルムの) 武器を構えている。

Gargantuan の車輛も攻城兵器の類とみて間違いない。

個々に距離を詰めると分散してしまうため、Hut を動かして接近する方針に。

Nass が Hut 前に霧を張り遠距離攻撃を牽制せんとするが.....。

Troop の一群が何か妙な装置を取り出すと、紫色の稲光めいたものがほとぼしる。

攻撃ではなかったようだが、その後 Hut が Dimension Door しようとするとうまく失敗してしまった。阻害されている?

また Troop の銃による攻撃は弾幕ゆえに範囲攻撃となり、霧による防御は期待できないのでここに留まることも不利。

とくに Dimension Door に頼って別個行動しようとしていた Arl はピンチ。

となると鳥小屋さんチームは徒歩で Hut を動かして接近せざるを得ないが、敵はさるもの、わずかでも Hut が前に脚を進めるととたんに地面が炸裂する。地雷だ!

智将 Diana 曰く、「これは戦車戦ですよ。正面から突っ込むなんて愚か」。しかし戦車は広く敷設された地雷には無力なものである。

Nass は自然の友達を呼び出し地雷除去させるという鬼畜戦法に打って出る.....が、召喚さえも阻害されている。

くやしい Nass は自ら Wolf に変わって DR を得て外に飛び出し、自慢の Perception で地雷原の大まかなアタリをつけることに成功。

Hut は脚で動く関係上、幅跳びもできる。これにより、無事敵の一団まで接敵する算段は立った。

さて、地雷と弾幕で相当ボロボロになってしまったものの、Hut と共に PT は敵 Troops に肉薄できる位置まで場所を移すことができた。

敵 Troop は銃撃に加え手榴弾、火炎放射、迫撃砲、マスタードガス (Blind+Nausea) などさまざまな手で攻撃を行う。

近接したことにより同士討ちの危険性が生じ、牽制することはできたものの、依然として敵の豊富な手数は脅威。

おまけに敵の攻城兵器.....いわゆる「ツァーリ・タンク」は白兵戦状態にある Kirsikka にも容赦な

く主砲の 8 ポンド砲と機銃を撃ちこんでくる。

Hut と別行動を取っていた Arj は遠方から呪文を詠唱。

Icy Prison がツァーリ・タンクに決まり氷漬けにするが、乗員の処置により 1 ラウンドで破られてしまう。

また、Sirocco や Intensified Fireball ( 175 点 ) が Troop に決まる。

Hut や Sputnika と共に行動する Nass はツァーリ・タンクの下に潜り込み、「爆ぜろ」と口に咥えた Fire Seeds を全着火する。まさに地雷犬。

Diana の Web に捕らえられた Troop は自らに火炎放射器を放ち、焼身自殺しながらも Web を焼き払う。

損傷を受けたツァーリ・タンクからは機銃担当の兵士がライフルを手にゾロゾロと出てくるが、それらを Sputnika 操る Hut が踏み荒らししていく。

相当のリソースを消耗しながらも、なんとか Troop2 団を無力化し、ツァーリ・タンクも機能停止へと追い込んだ。

### Rasputin 登場

焼き討ちされた村の中央広場では、大量の死体が野焼きにされている。いったいこの村になにがあったのか。

その傍らに集合し、Troop の一人を捕まえて尋問しようとする。しかしその間もなく、焚き火の横からひげもじゃ碧眼の男が現れる。

ロシア訛りのタルドール語で、「もう遅い。Thrice-tenth Kingdom はもうすぐ私のものだ！」と喋る。

Rasputin と名乗るその男と対話フェイズ。

Sputnika 「貴様を知っているぞ。ババアの敵だな」

Rasputin 「そうだ、忌まわしきバーバヤガの息子だ」

Diana 「バーバヤガの領地を奪って何しようとしてるの？」

Rasputin 「奴の力を奪い、私の力を高めるのだ。科学技術と魔法の力が合わさればバーバヤガなど敵ではない」

Nass 「お前は Witch か？」

Rasputin 「違うよお」

Helvetica 「この村の惨状はおまえの差金か」

Rasputin 「そうだよ悪いか」

Helvetica 「悪いやつだ！お前を追い詰めて殺す！」

Rasputin 「やれるならやってみろ。しかしお前たちも悪いババアに騙されて大変だな」

対話の時代終了、全員 Will セーブを強いられる。

Greater Forbid Action により、Sputnika と Helvetica 以外のキャラの移動が禁じられてしまった。

さらに、死体の山が動き出し、巨大な塊となり動き出した！ Fiery Corpse Orgy である。

Helvetica が Rasputin に斬りかかるがすり抜ける。どうやら会話していた Rasputin は Project Image だったようだ。

先ほどの Will セーブの DC の高さといい、Rasputin は高レベルの魔法使いだろうか？  
同時に、ツァーリ・タンクの傍に止まっていた Hut が勝手に動き出し、何かを探すようにあちこちをうろつき始める。

Diana は Greater Dispel で Forbid Action を解こうとするが通せず。

Arl は焚き火から距離を取ったのが災いし、戦闘から半ば取り残された状態。

Fiery Corpse Orgy は死ぬか気絶した後の上に乗られると、中に取り込まれてしまうようだ。  
単純に殴りも強いが、炎ダメージが混ざっているため、炎対策をとった前衛陣ならなんとか耐えられるレベル。

動ける Helvetica と Telekinetic Charge をもらって近接した Kirsikka、巨大化してリーチを得た Nass が肉薄して殴りあう。

毎ラウンド 150 点ほど与え続けるがまだ倒れず、FullAttack を 3 回受け Kirsikka は倒れるが、続く Helvetica の剣で Ooze は動かなくなる。

### Dancing Hut を追って...

焼け落ちた家々を探索するも、村に生存者はいなかった。当然 Rasputin の姿もなし。  
死体の焚き火の底には金歯から溶けた金 (1000gp) が溜まっていたので、心苦しいが拝借。

Troop の死体やツァーリ・タンクの中を探ると、モシン・ナガン M1891 ライフルが 7 丁、Madsen 軽機関銃 6 丁が見つかる。

また、兵士の持っている紫の電光を発する機械には、《Viktor Miloslav, Akuvskaya Monastery, 1917》という刻印。数字の意味はわからないものの、真ん中は建物の名前に見える。敵の根城か？

Dimension Door はしばらくしたら使えるようになった。この紫の電光が障害したのだろうか。使い方がわからないため、裏付けは取れず。

さて、村を探索している間も、Dancing Hut は何かを探すようにあちこち歩きまわっている。  
Diana が乗り込みコントロールを得ようとするが利かず、やがて木々を折って走り始めてしまう。  
PT 分割を避けるため Diana が降りると、Hut は遙か彼方へと去って行ってしまった。  
消耗しきったため、Rope Trick を用い一晩の野営。翌日は、逃げた家を探しに行く方針。

翌日、Hut が木を踏み荒らした跡をトラッキングすると、じきに歪んだ木が見られるようになるなど、森の様子がおかしくなってくる。First-world の影響か。

さらに進むと、鉄条網と塹壕、堀で囲まれた施設が目の前に現れた。

その入口付近で、Hut は立ち往生している。この中に何かキーアイテムがあるのだろうか？

Nass は変身して地面に潜り、X-ray ヴィジョンを照射して基地のマップや人数などの情報を得たが、長時間の X-ray 視に疲弊し、合計 20 点ほど Con にダメージを受けてしまう。

どうも中には大量の人間にまじってアンデッドもいる様子。塹壕にも人が潜んでいるようだ。

### 対 Animated Tank 戦

当然、門をロックしたり真正面から突破するのは得策でない。

Buff 後、全員が飛行手段を得て Invisible Sphere で透明化し、門の上を越えようとしたが、見張り塔の照射する光に照らされると数人の Invisible が解けてしまう。

さすがに透明化程度は相手も想定済みのようだが、門の上をあえて選んで抜けようとした我々も

愚かであった……。

左右の塹壕から Troop3 隊が現れると同時に、開け放たれた門から車輛が登場した！

Sputnika は塹壕からの道を塞ぐようにして Wall of Stone するが、門を越えるべく高所にいたのが災いして、射撃や迫撃砲を食らってしまう。

高度を落とし、さらに塹と建物や鉄条網の間に Wall of Force を重ねたことで、右サイドからの Troop は撤退を余儀なくされた。

正門から現れた車輛の名前は Animated Tank、液体漬けの脳みそが中に搭載されていて動かしているようだ。不気味！

また、施設の敷地角の方には紫色に放電している塔があったが、そこから放電攻撃が全体に飛んで来て、馬鹿にならないダメージを後衛に残す。

「ワールドアンカーパルス充電！」とか声が聴こえる。

Troop は範囲攻撃で焼き払い、戦車はしこたま殴って鉄くずに変えたが、消耗が激しいので一旦 Hut まで撤退し回復。

### 敵基地潜入

サーチライトは照射されなければ透明看破は受けないので、次はサーチライトの薄そうな場所（背後）から攻めることにする。

基地内部は戦車が往来しているが、人の数自体は少ない模様。

いくつか小屋があるものの、中には大型クリーチャーなどがいることが先の偵察で分かっており、つつくと厄介そうなので放置の方針。

基地北部中央には、あからさまに恐ろしい黄色いガスが満ちた空間がある。

Nass がそこに近づき鼻をクンカクンカすると、黄色いガスが2体のクリーチャーとなって滲み出てくる。

それが PT の間を通り抜けるだけで、40 点近い酸と負エナジーのダメージを受けてしまった。Save のない Engulf のようだ。ずるい！

さらに柵の中でガスに晒されていたゾンビたちがライフルを構えて柵越しに銃撃を放ってくる。

幸いガスモンスターはタフではなかったので殴り殺した。

ガスが消滅するとゾンビたちはコントロールを失い、銃撃をやめる。この基地では銃声は日常茶飯事らしいのでとくに騒動にはならず。しかし Wand がどんどん減っていく……。

中央には巨大な建物の廃墟がある。ほぼ骨組みだけになっているが、元は寺院か？

廃墟には紫の電光が走っている。正体を探るべく Detect Magic を使った Sputnika は、圧倒的な Abjuration のオーラに気を失ってしまい、その際にヴィジョンを見る。

《廃墟が教会だったころ。バーバヤガが周りをふわふわ飛んでいる。

機械によって紫の電撃が撃ち込まれ、バーバヤガがそれを食い止めようとする。

あたり一面にラスプーチンの顔が満ち、それがバーバヤガを苦しめ、人形の中に挿れられてしまう。

その人形に大きな人形が覆いかぶさり、さらに大きな人形が……（マトリョーシカ？）》

### Rasputin ふたたび

Abjuration その他が掛かっているということもあり、この廃墟に侵入すると何かが起こりそうだ。

その前に周りから潰そうと、北西の家（偵察では何もいなかった）の家探しに入る。

本棚が並んだ廊下に、またも Rasputin がいた。おそらく今回も幻影だろうが。こちらを見てほくそ笑みながら、先ほどのヴィジョンと同じようにマトリョーシカを詰める作業をしている。

Rasputin 「君たちも事を荒立てたくはないだろう、立ち去り給え」

Sputnika 「私たちもバーバヤガを助けるために働かされている、利害が衝突しなければよくない？」

Rasputin 「今更言ってもしかたないか。でもこの家からは出て行ってくれ」

先ほどは死ぬ死ぬ言っていたのになんとも穏やかな物腰である。しかし敵であることには変わらず。

PT が出て行かないので、Rasputin は手に持ったマトリョーシカをパカパカと開けていく。

すると1個ずつインコ的な何かが、PT の傍に出てくる。合計4人、1人は男、だいたいティーンエイジャー。

この描写のみで、PL のうち外国事情に詳しい方々は察知する。どうやら最後のロシア皇帝（ニコライ2世）の子どもたちのようだ。

すなわち、タチアナ、オルガ、アレクセイ、マリア。……1人足りないようだ。アナスタシアは？

本性はともかくとして、クリーチャーとしてはどうやら以前現れた Animated Dream のようだ。Incorporeal Touch でバカにならないダメージを出してくる。1人を Resilient Sphere で隔離するも、Confusion で後衛が混乱してしまう。

Helvetica が配った Broken Wind Gambit からの機会攻撃でタチアナがまず成仏。

しかし、混乱した Arl が前衛に Intensified Fireball を放ち、Kirsikka が死の一手手前まで減らされてしまう。

同じく混乱していた Sputnika が通常通り動けるようになった際に Calm Emotion を唱え、場は正常化。

Nass が虎の子の Mass Bear's Endurance を切り、Kirsikka はとりあえず死線を切り抜ける。

Helvetica も満身創痍になりながらも Parry&Reposte を華麗に決め、オルガを成仏させる。

戦線復帰した Kirsikka のフルコンボでアレクセイも成仏し、Sphere で隔離されていたマリアは解除後タコられて成仏。

Arl の混乱 Fireball で多数が焼けてしまったものの、廊下にあった本棚には貴重な書物がいくつか見られた。

魔法のアイテムとして、Greter Book of Extended Summoning(Evil)……いない。

そのほか、Earth の貴重な書物（各 1000gp）が見つかるも、うち 3/4 は焼失してしまった。

- ・ 《Aurora Consurgens》の装飾写本
- ・ 《エイボンの書 (The book of Eibon)》
  - ・ クトゥルフ関係っぽいけど、この時点でまだラヴクラフトは名を挙げていない。まあ

### ファンタジーだしね

- 《De Praestigiis Daemonum》
- 《地獄の辞典 (Dictionnaire Infernal)》 1863 年版、イラスト多数
- 《ソロモンの鍵 (Key of Solomon)》の古い写本
- 《Liber Ignium》
  - Greek fire や火薬のマニュアル
- 《嘘の書 (The Book of Lies)》
  - どうやらクロウカードの元ネタらしい
- 《Le Livre des Mediums》

ああ、もったいない！

### 余話

DMいわく、これ以降あらゆる手段で次元間移動はできず、Hut も移動を拒否するそうだ。Hut 中の大釜を見ると、煮え立っていたはずのシチューは静まっている。また、このダンジョンはヘビィで、1日でクリアするような場所ではないらしい(なおかつこの基地で Must Die は終わるっぽい?)。当然、時間をかけすぎても Rasputin が力をつけるだけで、良いことは全く無いが。

次に休みに戻るまえに、余裕があれば北東の小屋のどちらかを攻略するのがよいか。

### ボーナス経験点

Helvetica 1.0

Kirsikka 0.4

Nass 0.7

Sputnika 0.6

Arl 0.2

Diana 0.9